

第 5 回 秦野市総合計画審議会会議記録

1	開催日時	令和 2 年 1 1 月 1 2 日 (木) 午前 1 0 時～1 2 時	
2	開催場所	秦野市役所 4 階 議会第 1 会議室	
3	出席者	委員 敬称略	小林会長、相原委員、岩田委員、小川委員、北村委員、熊沢委員、佐野友保委員、佐野典文委員、関野委員、高橋委員、中谷委員、奈良委員、野田委員、福原委員、藤村委員、山口委員
		市職員	市長（答申時のみ）、両副市長、教育長、政策部長、総務部長、くらし安心部長、文化スポーツ部長、福祉部長、こども健康部長、環境産業部長、都市部長、建設部長、上下水道局長、教育部長、消防長、総合政策課長、総合政策課担当課長、行政経営課長、財政課長、総合政策課課長代理（総合政策担当）、行政経営課課長代理（行政経営担当）、行政経営課課長代理（公共施設マネジメント担当）、財政課課長代理（財政担当）、総合政策課担当職員
4	議 題	1 秦野市新総合計画（仮称）基本構想（案）の答申文案 2 基本構想の答申 3 第 3 部基本計画について 4 その他	
5	配付資料	資料 1 秦野市新総合計画（案） 答申文案	

6 会議結果（概略）

- (1) 秦野市新総合計画（仮称）基本構想（案）の答申文案

【説明】

答申文案により説明

【審議】

答申文案の通り、答申することを承認

- (2) 基本構想の答申

小林会長から答申書の読み上げ後、市長へ答申書を手渡し

- (3) 第3部基本計画について

【説明】

資料1により説明

【意見・質疑】

藤村委員：P35「互いに尊重し共に支えあう地域づくりの推進」の主な取組みについて、「地域力の強化と包括的な支援体制の推進」を位置付けているが、コロナの影響で地域での支えあい体制が低下している。市民向けの取組みや市と協働する取組みを個別計画で位置付けてほしい。

福祉部長：P34の取組みの方向で、地域力の強化について触れているが、具体的な取組みを地域福祉計画で位置付けていきたい。

熊沢委員：主な取組みの表記について、「等」が連続している箇所があるが、「等」を使わず具体的な内容を記述したほうが、強調できると考える。

事務局：ご指摘の内容について、全体を確認し適宜修正する。

佐野友保委員：P33「医療・年金の健全運営」として、位置付けられている「ジェネリック医薬品の使用促進」については、行政として普及に向けた工夫が必要である。

また、今回の計画は子どもにスポットが当たっており、良いと考えるが、ひとり親家庭の食に関する具体的な支援策はどのようなか。

福祉部長：コロナの影響で、市民向けのイベントが開催できていないが、適正利用の周知方法を工夫していきたい。

こども健康部長：子育て支援に関する施策は、どの自治体でも優先順位が高いものである。国でも様々な動きがあるので、その動きを踏まえて、市としてできることを検討していきたい。

佐野友保委員：子どもの教育において、教育費の負担というのは、大きな問題となっている。P46「支援を必要とする子ども・家庭への対応」にあるような、学習支援は非常に重要であり、学童保育等を充実させていく必要がある。

こども健康部長：親の収入と子どもの学力が比例するとのデータもあり、ひとり親は学習面での影響が大きいと考えている。学習支援をはじめとした全ての子どもの放課後の居場所確保に取り組んでいきたい。

中谷委員：P37「安心して暮らし続けられる高齢者等への支援の充実」について、コロナの影響が大きい中、高齢者の日常の医療を確保することも重要である。

高橋委員：P49「子どもたちの新たな学びを支える教育水準の改善・向上」について、新たな学びが定着することで教育水準の改善・向上につながると思うがいかがか。

教育部長：教育水準の改善・向上があって新しい学びにつながると考えているが、再度検討する。

野田委員：P87「防災・減災対策の推進」の、保安林や水路に関する現状や取組みの方向について、県の認識と異なっている部分があるので、調整をお願いしたい。

建設部長：建設部が窓口となって調整する。

相原委員：河川整備や急傾斜地の工事を進めるには、地域の協力と財源がハードルとなる。また、ハード事業だけでは想定外の事態に対応困難となることも考えられるため、ハード事業とソフト事業を連携して進めてほしい。

くらし安心部長：県との連携を念頭に表現を工夫する。

山口委員：P79「持続可能な都市農業の推進」に当たっては、鳥獣対策が最も重要となる。捕獲鳥獣の処理方法については、農協でも課題と認識しており、焼却施設等の整備計画が具体化するよう協力していきたい。

環境産業部長：現在、市、農協、猟友会の3者が一体となって被害対策を進めている。施設整備については、前期計画の5年間で検討を進めたい。

高橋委員：P98「安全でおいしい水道水の供給」について、水需要の増進に努めるとされているが、人口減少や資源の保全と相反していないか。

上下水道局長：人口減少により水の使用量が低下すると、水道事業の収益が低下し施設の維持管理が困難になる。そのため、水需要を増進し、収益の確保に努めていく。

北村委員：「働きたくなるまち」の実現に向けて、金融機関と行政の連携が必要と考えている。地域経済の活性化に向けて今後も協力をお願いしたい。

環境産業部長：P116「雇用、就労への支援の充実」に、労働環境に関する施策を位置付けているが、「働きたくなるまち」の実現には、様々な分野が関係してくるため、庁内で調整していきたい。

佐野友保委員：P109「地域資源を生かした観光振興の充実」に関連して、「おいしいはだのの水」の販売量はどのようか。

上下水道局長：名水のPRが目的として、年間14万本製造しており、うち8万本を市内に卸している。

佐野友保委員：PRを考えると、製造所も秦野市内となると、より効果が高いと考える。

また、秦野の観光の課題としては、観光消費額が低いことがあり、消費を喚起するためにも「食」を重視すべきと考える。鳥獣を食につなげる工夫があっても良い。

上下水道局長：製造については入札の関係で市外の事業所となっているが、今後も情報収集していきたい。

環境産業部長：「食」は、観光の大きな要素であり、市の魅力につながるものと考えている。ジビエについては、需要と供給のバランスが大事であり、まずは食べることへの抵抗感をなくすことが必要と考えている。現在、鶴巻温泉駅周辺で大山を結ぶバスの季節運行に合わせ、試行的にジビエを提供する取組みも始まっているので、検討

を進めていきたい。

熊沢委員：P136「適正かつ持続可能な行政運営の推進」の主な取組みにある「サウンディング型市場調査」、「公募型プロポーザル」は注釈が必要である。

行政経営課長：適切な注釈を追加する。

福原委員：P135「適正かつ持続可能な行政運営の推進」について、前期計画5年間で、指定管理者制度やPFI等の民間の力を使った新しい取組みを位置付けることは検討しているか。

また、P129「広報・広聴活動の充実とシティプロモーションの推進」にある「シビックプライドの醸成」は、今後の秦野市にとって非常に重要なものとなる。

行政経営課長：前期計画5年間について、PFIは予定していないが、公園等への指定管理者制度の導入を進める予定である。

奈良委員：本町地区に住んでいるが、イオン周辺は人通りが多いが、駅前商店街は人通りが少ないと感じている。郷土愛につながるような歴史・文化を生かした街歩き等の取組みを行っても良い。

環境産業部長：P119「意欲もてる商店経営への支援の充実」として、商店街と歴史を結び付けた「ハダ恋みつけもんの旅」を開催しており、今後も力を入れていきたいと考えている。

小川委員：答申の中でも、人口減少に触れていたが、近いうちに市全体の公共交通の維持が課題となってくるため、社会実験のような取組みを位置付けても良い。

また、計画全体において、市民の役割を主体的に位置付けることで、より実効性の高い計画となる。

都市部長：立地適正化に基づく、コンパクト・プラス・ネットワークを進めていくためにも、公共交通の維持は非常に重要と考えており、事業者と連携して暮らしやすいまちにしていきたい。

佐野典文委員：観光については、滞在時間が延びることで、消費額が上昇すると考える。秦野は大型の観光バスを停められる

場所が少ないが、新東名の整備と合わせて戸川公園の活用を進められると良い。

また、防災に関しては、従来の1時間あたり50ミリでなく、80ミリ、100ミリの降雨量を想定した施設整備や対応策を検討する必要がある。

環境産業部長：現在、観光振興計画を策定しており、市内各施設の所管者と連携するとともに、滞在時間の延長に向けて、観光農園等の体験型観光を充実させたいと考えている。

上下水道局長：近隣自治体とも連携して、既存の雨水処理施設の力を十分に発揮できる体制を作っていきたい。

建設部長：現在、新東名SA周辺の市道再編を行っており、その中で大型バスが通行できるルートを検討していきたい。

岩田委員：P127「多様な担い手による協働の推進」に関連して、担い手不足は、青年会議所においても同様で、組織の維持で手一杯となり、本来の活動ができない状況となっている。担い手の確保に向けて、今後はより官民のパートナーシップが重要と考えている。

関野委員：P27「健康寿命の延伸に向けた健康づくりの推進」について、健診受診率の向上が目標値として位置付けられているが、受診率の向上には、申し込みやすく気軽に受診できる体制が必要である。

P31「健康で暮らせるための地域医療の充実」について、主な取組みに、秦野赤十字病院の整備支援が位置付けられているが、神奈川病院も地域医療の拠点として位置付けていく必要がある。

また、観光に関しては、安心して来ていただくためにも、十分な駐車スペースを整備することが重要であり、地域の活性化にもつながっていく。

(4) その他

事務局：第6回会議を1月28日（木）、第7回会議を2月18日（木）に開催する。

－閉会－